

20th Anniversary

CONTENTS

■ 同窓会長あいさつ.....	1	■ 卒業生は今	7
■ 「聖陵20号発行記念特集」 20人の先生に聞きました！	2	■ 活躍する在学生.....	7
■ 新校舎完成！	6	■ インフォメーション.....	8
■ ホームカミングデー	7	■ 事務局だより.....	8
		■ 編集後記	8

東日本大震災により被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。



新校舎全景 (STUDENT HALL) 冷暖房完備、2階建、床面積約2,000㎡

同窓会長 あいさつ



盛岡大学聖陵同窓会
会長 菅原 元

盛岡大学は新校舎と共に大きく羽ばたきます

盛岡大学では、昨年9月16日に新校舎が落成しました。これから落として、ホームカミングデーにあわせて、一般に公開されました。

新校舎はスチューデントホールの名称で、学生生活の城が完成致しました。また待望の同窓会室も大学側から準備頂いた事に、感謝申し上げます。同窓会室から眺める岩手山は自慢の眺望です。また、テーブル、イス、ロッカー等の備品を備え、同窓生の心の拠り所として、皆様是非どうぞ御利用下さい。

さて、ホームカミングデーでの、同窓生2名の活躍ぶりを御紹介させて頂きます。基調講演では、4期生、児童教育学科卒、現葛巻小学校副校長の小室好司さんが、被災地の文化支援として、自らの現場写真を基に『発信できる文化』を提唱、そして現場で何を必要とするかを直接話し、感じ取るコミュニケーションの必要性を教えて頂きました。

次の歓迎レセプションでは、

7期生、英米文学科卒ミュージシャンの桜田亮(マコト)さんのミニコンサートが実現、代表曲『やさしい風が吹いたら』の名曲が耳に残りましたし、盛岡大学さんさチームに書き下ろした応援歌『青春の日々』が、やはり最高でした。お二人の笑顔の活躍に感謝申し上げます。最近のトレンドとして、盛岡大学では【対話の先に未来を創る】というキャッチコピーとロゴマークを策定しました。今後目にする機会も多くなることでしょう。

また、前盛岡調理師専門学校(旧愛育幼稚園、私の教育実習園)が売却される事も報告させて頂きました。今後とも、盛岡大学聖陵同窓会に対して、御指導、ご声援をお願いします。

対話の先に未来を創る
MORIOKA UNIVERSITY
盛岡大学
大学のキャッチコピーとロゴが決まりました!

「聖陵」20号 発行記念特集

20人の先生に 聞きました!

1997年12月に創刊した「聖陵」が発行20周年目を迎えました。

20年目にちなみ、懐かしの先生や職員の方々20名から同窓生へ、コメントをいただきました。



1981... 1987... 1989... 1997... 2005... 2007... 2010... 2017

4月	4月	7月	12月	4月	3月	4月	3月
盛岡大学開学/ 盛岡市厨川に 英米文学科・ 児童教育学科で スタート	文学部 日本文学科 開設	砂込キャンパス 移転	「聖陵」 創刊号発行	英米文学科を 英語文化学科に 名称変更/ 文学部社会文化学科 開設	「聖陵」 10号発行	栄養科学部 開設	「聖陵」 20号発行



照井 悦幸先生

文学部
英語文化学科 教授

カーリングを始めた。20キロのストーンを滑らせて、約40メートル先の氷上に描かれたサークル(ハウス)に放り込む。簡単ではない。まず、とどかない。それで、強くやるとハウスを通過して端までぶっ飛ぶ。片足を短距離走のスターティング・ブロックのようなもの(ハック)にかけて、反対足を氷上に滑らせながら振り出す、と同時にハックを蹴り出す。これを「投げる」とか言わず、デリバリーと言う。ストーンの伸びは、ハックを蹴り出してから、ストーンを手放すまでの勢いによる。この勢いのことをウエイトと言う。ウエイトが少ないとへろへろ途中で止まり、ありすぎると端までぶっ飛ぶ。手投げではいけない。ウエイトの加減は、身体全部で調整する。強すぎず、弱すぎず。感覚的である。だから、きちっと心を整えてからやる。ウエイトの加減は、日々氷の条件で異なる。状況を読んだうえでやる。できる人は、これをピタリとするのである。やってみよう。



大上 治子先生

文学部
英語文化学科 元教授

皆さんこんにちは。同窓会報20号おめでとうございます。社会や家庭で活躍している多くの卒業生に触れるたびに誇らしく思っております。

私は一昨年に退職し、週二日の非常勤講師と、読書やドラマ三昧、海外旅行などで過ごしています。授業では若い学生と向き合い、英語や文化理解を深める貴重なチャンスで、今も英語力アップ、グローバルな文化理解に励んでいます。

三月にはシチリアを訪れる予定です。ここは中世に異文化が共存して豊穡な文化が発展し、12世紀ルネサンスというヨーロッパ発展の基礎が創られた所です。シェイクスピアの『空騒ぎ』の舞台にもなっています。他人を幸せにする良いウソ、悪意で破滅させる悪いウソ。誤解や葛藤を経ての和解。これからの人間や社会の在り方を考えるヒントに満ちています。多忙とは思いますが、文学や旅で視野を広め、心を豊かにしてくださいね。

同窓会のさらなる発展と皆様のご活躍を、心よりお祈りいたします。



大石 泰夫先生

文学部
日本文学科 教授

私が盛岡大学に赴任して、27年が経とうとしています。思い出に残ることはありすぎて、とても簡単には述べられません。あえて挙げるなら、日本文学科の関西方面の研修旅行を挙げたいと思います。今年はちょうど私が統導しましたが、20年以上続いているこの旅行で一緒に旅した学生諸君を、関西を旅する度に思い出しています。

赴任した当時の私は32歳で、初めての一人暮らしでした。その後結婚し、三人の男の子に恵まれ、長男は大学三年生。接している学生の年齢はいつも同じですが、子どもたちと同年齢の学生に教室で接することになって、時の流れを感じています。

「便りのないのは元氣な証拠」です。でも、私は「いつてらっしゃい」という言葉で卒業生を送り出しているのですが、なかなか「ただいま」と言って帰ってきてくれませんが、ぜひ、多くの卒業生の皆さんに、「ただいま」と言って帰ってきてもらいたいものです。



アンハー・スーザン先生

文学部
英語文化学科 元教授

The moments most memorable for me at Morioka University are those times when a student comes up to me and says that he or she has understood. As a long time teacher, those are the words I long to hear. Presently, as I hold speech & debate classes, I see students opening up, giving their opinions backed by rational support, students learning to think from the opposing side. In my class for children's literature, I aim to have the students look for the morals and values taught in a story. To decide, as a teacher or parent, which stories are best for children is crucial. It is a real pleasure to watch as my students come to recognize these things for themselves. When I know they are learning in my classes, then I know that I have done my job as educator.

In addition to my classes at the university, I am teaching English to adults in my neighborhood. I see these adults as continuing learners who can enjoy themselves without fear of making mistakes; they have a pure desire to communicate their ideas. This is rewarding for both them and me, and I hope the students at Morioka University will grow into such kind of people. An education doesn't end when you graduate. Never stop learning.



林 稔先生

文学部
日本文学科 教授

大学生になった時、中学校国語の教員免許状を取得するために必須だった書道、もちろんこの書道は、書の専門家を養成するための講座ではない。文字の由来を学んだり、自分の署名程度は手書きで綺麗に書けるというような社会生活で役立つ、文字文化への関心を高める内容の授業であった。当時の到達目標は、正しく整えて、速く書くことといった技能中心の授業だったと記憶している。

この書道がなんだか面白くて、結局高校の芸術科書道の免許も取得し、卒業後は大学院に通ったり、高校の講師をしたりしていたが、三十二歳の時に大学の教員になった。盛岡大学には二十年前四十四歳の時に着任し現在に至っている。その間、書技能の練磨に励んできた。また、卒業していった多くの学生たちと共に学んできた。一方、学生に教わることも随分あった。学生たちから学んだことは、書は技術だけではなく、運動感覚や論理的思考をもって視覚、聴覚を研ぎ澄ませ、言葉の意味や概念を理解し一度自分の心に感してから《生きた言葉を書く》ということである。



小原 俊一先生

文学部
日本文学科 准教授

私が図書館司書課程の講師として赴任したのは1995年でした。当時は振り返ると、現在と比べて履修者が多かったことが印象に残っています。科目によっては80名以上もいて教室が狭く感じたことを思い出します。

また、当時は現在と違い、土曜日にも授業が組まれており、特に資格課程(教職や司書など)の科目が開講されていました。このため土曜日は登校する学生の数がいつもより少なく、学内がゆったりした雰囲気だった印象があります。土曜日にも授業が設定できたため時間割に余裕があり、同一時間帯の科目のバッティングが現在よりも少なく、その点では学生が履修しやすかったのではないかと思います。

ほかには、個性的な学生が多かったことが印象に残っています。授業中に最前列で文庫本を読んでいる学生がいたのですが、幸田露伴の『幻談』でした。さすがは文学部と感心させられ、今でも忘れられない思い出です。



高城 靖尚先生

文学部
社会文化学科 教授

同窓生のみなさん、お元気ですか? 社会文化学科の高城です。(前は専門基礎とか児教でした。)時の流れるのは早いもので、私も盛大に赴任してから29年目の春を迎えようとしています。なので、同窓生の方も50歳近くになっている人もいれば20代の人もいますよね!ん~。いろいろな人生を過ごしていると思います。健康ですか? まずは体が資本ですので運動してください!いいですか~(笑)また、このような企画を頂いて、28年を思い起こしているのですが、まっ、ラグビーが中心でしたね。150名近いラグビー部OB、OGを送り出し、まだ何とか、監督をやらせてもらっています。自分の子どもも3人とも社会人になりかみさんとの二人の生活を楽しんでいます。(?)孫もできましたよ~!皆さんも子供を連れて盛大に遊びに来てください。もう少し、大学にはいると思います。

では、体に気を付けて、頑張れ~!



柳沢 文昭先生

文学部
社会文化学科 教授

フランス語の辞書、まだ捨てずに持っていますか? と、まず問いかけるのは、資格にも就職にも無縁なフランス語を勉強してくれた方々に親愛の挨拶を送りたかったからです。でもよく考えると大学の文学部での勉強は実利とは縁遠いものです。そもそも大学の第一の使命は、人間をより高度に人間たらしめる精神的・道徳的美質、つまり徳を涵養する機会を提供することです。そこで若い時期の四年間を過ごしたという過去は皆さんを、運悪くそういう経験をしなかった人達からはっきり区別します。これはいやらしいエリート主義とは無関係な正当な評価です。なぜなら、大学に通ってもそういう努力をしない人もいれば、別の場所でそれ以上に自己を高める人もいるからです。もし盛岡大学文学部で過ぎて行った時間が今の皆さんの支えになってくれたら、幸いです。

フランス語の辞書、まだ持っていたら、ずっと捨てないで下さいね。



飯島 隆先生

文学部
児童教育学科 教授

1981年の盛岡大学創設から勤めて35年、この3月に退職します。研究室の整理をしていた折、1985年第2回卒業記念の先生方35~6名の集合写真が出てきました。その写真には今は亡き方々が約半数おられ、時の変遷を想わされました。

翻って30年、50年後の盛大、日本、そして世界はどのようになっているのでしょうか。現在日本では少子高齢化、世界ではISの脅威、民族間の争い、そして今はトランプ大統領の出現によって混迷の度を深くしています。

国連は2030年に向けてSDGs(Sustainable Development Goals)「誰も置き去りにしない(世界を目標して)」を開発目標にしました。私たちも地球人の一人として、大きな視野と理念をもって歩むことが求められています。



熊谷 常正先生

文学部
社会文化学科 教授

先日、「日本語大賞」に入選した「悔しくても心をこめて」と題した小学5年生の女の子の作品が新聞に載っていた。彼女は、低学年から将棋を続けている。将棋は、自分が負けたことを相手に伝えて勝敗が決まる。三年前、10連敗した後、勝てると思って臨んだ対局でも終盤に逆転され、11回目の「負けました。」を言う結果になった。

その時、この言葉には相手を認め尊敬の意味が含まれていると、彼女は気づく。そして、これから何度も口にするようになるだろうが、心をこめて「負けました。」と伝えるために、この言葉を大切に、もっと強くなり、と結んでいる。

負けることは恥ではない。それを受け入れ、分析し、相手の強さに敬意を表すること、そしてその原因を繰り返さないこと。ある意味、負けることは勝ち続けるより大きな教訓を自らにもたらしてくれる。負けを恐れるあまり、その場から離れることは、折角のチャンスを逃してしまうことになるだろう。



佐藤 康司先生

文学部
児童教育学科 教授

ご無沙汰しております。滅多にない機会ですので、厚かましくも一つお願いを書かせて頂きます。「教員になるなら児童教育学科」と(一部で)言っているように、教員養成が本学科の特色です。が、近年では、少子化や学校教育における諸問題の影響か、教職に対するイメージが決して明るくはない方向に変化しているとともに、周囲を見渡しても教員への志望の「熱」がやや冷め気味の感が否めません。とても残念なことです。

そこで、特に教職にある同窓生の方にお願ひがあります。子どもとのやりとりなど日常のほんの一コマでも結構です、教員でよかった、教員として嬉しかったと思えたエピソードをお知らせください。本学科HPに掲載できたらと(勝手に)考えています。卒業生の活躍ぶりは、私たち教員の何よりの励みになりますし、また、多少とも教員への志望を持つ学生たちには、さらなる動機づけにもなるでしょう。ぜひメールをいただければと思います。どうぞ宜しくお願いいたします(個人的には「この授業を見に来て」を大歓迎)。



梅本 信章先生

文学部
児童教育学科 教授

平成元年の夏休み、大学が現在地に移転した。無免許の私は試して自転車で行って来た。大学に着いた時は滝の汗、そして疲労困憊。盛岡市内から大学の手前までは軽い登りになっていることを、その時に知った。2回試して諦めた。すぐに教習所に通い始めた。免許を取るまでの間、大学行きバスに乗り遅れると「分れ」や滝沢駅から歩いたりタクシーを使ったりした。色々対策を模索したが、良い策は見つけられなかった。現在でも、1時間目の授業では、「焦ることはない。無理するな。何なら休んでも……。不利になる扱いはしない」と言い続けている。

今回、記憶を辿った。小中高と卒業間もない頃のクラス会には何度か参加した。50歳の時、1度だけ中学の同期会に出席した。しかし、同窓会の記憶はない。そこで思った。同窓会の1つの役割は、相手の顔が思い浮かぶクラス会や同期会あるいは親しい仲間達との集まり等の情報集約・連絡調整係だろうと。



井川 輝美先生

文学部
児童教育学科 教授

同窓生の皆さん、お元気ですか?私が盛岡大学で得た最も大切な宝は、あなたたちとの出会いです。生物学や自然科学概論などの理系の授業で、様々な専攻の皆さんが学びに取り組み、科学の世界に心が開かれていく様子がとても輝いていて嬉しかったです。また、私が海洋調査の準備のため研究室の周辺で研究機材を広げると、不思議そうにいろいろと質問してくれましたね。そして、観測機器の製作にも参加してくれました。また、私の研究室の卒業研究は、3年次から勉強と実験の積み重ねですが、その中で一人一人が自分の内にある能力を発見し成長していく素晴らしい時を共にすることができました。また、一緒に聖書の御言葉を読む時もありましたね。どうか、覚えていてくださいね。私にとってあなたたちはとても大切です。けれども、神様にとっては、あなたたちはさらにかけがえのない宝であることを。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い」
イザヤ書43章4節



湯沢 康晴先生

文学部
児童教育学科 教授

卒業論文集を製本する時期がやって来た。全員がワープロ原稿の論文を提出するようになり、論文集を作り始めたのは平成17年度なので、もう10年以上作り続けてきた。当初は卒業式前日に卒業礼拝があり、その日までに製本を終え、卒業論文とともにゼミ生に渡していた。やがて卒業式の会場が体育館からマリオスに変わり、卒業礼拝の開催日もずっと早まったので、論文集の完成を待つ連絡するようになった。かつては卒業式、謝恩会、クラスコンパの流れがあって、卒業式前日から当日(あるいは翌朝!)にかけてが思い出深かったが、今は論文集をまとめる日々や編集後記の執筆が感慨にひたる時間となっている。こうして懐旧の念を強めると、20年ほど昔のことが蘇る。まだ手書きの時代、提出された原稿を小生がワープロに打ち込んで論文集にする約束をして卒業生を送り出したのだが、それを果たせずに終わってしまったことだ。面目なく、お赦しを乞う次第である。



山村 堯樹先生

栄養科学部
栄養科学科 教授

高村光太郎の詩に「道程」というものがあります。それを紹介致しますと。

【僕の前に道はない 僕の後ろに道ができる
ああ、自然よ 父よ 僕を一人立ちにさせた広大な父よ 僕から目を離さないで守る事をせよ 常に父の気迫を僕に充たせよ この遠い道程のため この遠い道程のため】

私は、以前一般企業の研究所に勤めておりました。バブル絶頂期、自分の前に道はないなどは、全く考えておりませんでした。輝かしい道ではないにしても、流れに乗っていれば、平坦な道を歩めるものと思っておりました。それが、バブル崩壊後、会社は合併、研究所は閉鎖。それから20年盛岡大学でお世話になってきました。光太郎は自分の前には道がなく、後ろに道ができると、即ち「道があるから歩くのではなく、歩くから道はできる」と言っているのだと思います。しかし、それには、自分自身の力によるのではなく自然の大きな力が必要だと言っているのです。そこに、偉大なる高村光太郎の謙虚さを見ることが出来ます。私の盛大での20年、後ろに道をつくってきたかどうかは非常に心許ないですが、何か大いなるものに導かれた感があります。そして、この3月に無事定年を迎えることになりました。



笹田 陽子先生

栄養科学部
栄養科学科 教授

栄養科学部は、平成22年4月盛岡大学短期大学部食物栄養科を改組し誕生しました。開設して丸7年が経過し、卒業生の輩出は今年3月で4回目となります。卒業生の皆さまにおかれましては、管理栄養士、栄養士として病院、施設、学校、給食会社等々で活躍をしていることと存じます。

われわれが管理栄養士課程の必要性を痛感し、開設に向けて準備を進めているとき、短大卒業生からもその必要性が犇々と伝わってきました。第18回管理栄養士国家試験(平成17年度)より受験者数が明らかになり、前身の食物栄養科の受験者が栄養士課程では全国で2番目の受験者数であることがわかりました。当然、合格率は低く厳しい状況でした。

まだまだ歴史の浅い栄養科学部ですが食物栄養科47年の歴史が土台となっている栄養科学部です。

同窓生をはじめ、食物栄養科の多くの先輩たちと連携を図り、様々な分野で人々の栄養改善に大いに活躍して下さることを期待しております。



平野 寛さん

職員

時は昭和59年(1984年)。この年開学4年目の盛大は、完成年度を迎えようやくヨチヨチ歩き出した、そんな頃でした。私の初仕事は学割証の発行。つい2週間前はもう側だったのに、急に発行する側になり、不思議だなあと思ったものでした。次の年、当時なかった卓球部を高校が同窓の学生と一しょに立ち上げたのもいい思い出です。(残念ながら現在は休部中)学生部の後は厨川から砂込への移転事業に携わり、附属高校の事務室勤務の時、甲子園初出場を目の当たりにしました。その後砂込に戻り、企画、経理とわたって再び学生部へ。学生の様子が変わり過ぎていて、だいぶ勉強させられました。むがしは、いがったなあ(泣)学祭の時は、学生よりがんばりました(笑)現在はまた経理部で日々伝票と格闘しています。学生はどんどん卒業するのに、私はなかなか卒業できません。(でも、もうそろそろですが)同窓生のみなさん、どうぞ遊びにおいで下さい。昔の話しましょ。



村元 美代先生

栄養科学部
栄養科学科 教授

2017年2月、私が盛岡市に移り住んで7年が経ちました。即ち、盛岡大学に栄養科学部ができてこの3月をもって7年経過するわけです。当然ですが、その間色々なことがありました。

思い起こせば7年前の春、一期生が入学し、先輩がいないという不安の中、本当によく頑張ってくれました。私の中で君たちはレジェンドです!そして、一期生とは違う意味で気になった二期生、これからどうなっていくのだろうと考えさせられた三期生、そして不安な四期生以降...、栄養科学部は今も愉快的仲間たちでいっぱいです。(^^)

世の流れが変化するとともに、栄養科学部も着々と変化しています。大学が少子化時代を生き抜くためには、同窓生の皆さんの力が重要となってきます。そのためにも、何時でも大学を訪問し、今の状況を見て、聞いて、そして情報を交換し合ひましょう。我々も頑張っている皆さんの今が知りたいです。是非、お元氣な姿をお見せください。



藤澤 弘樹さん

職員 日本文学科卒/9期生

私は平成7年に盛岡大学に事務職員として採用され、現在は図書館に勤務しております。平成9年からは硬式野球部の監督も務めさせて頂いております。厨川図書館、砂込キャンパス図書室を経て、平成17年に建設された現在の図書館は年間約4万5千人の利用があります。学外の方も利用できますので、卒業生の皆様も是非ご利用下さい。私の学生時代の一番の思い出は3年生の時に北東北大学野球リーグの2部で初優勝し翌年1部に昇格できたことです。硬式野球部は1部3位が最高成績ですが、私の力不足で現在2部に所属しております。早急に1部に復帰し、全国大会出場経験のある他の運動部に追いつけるよう選手、スタッフ一丸となって頑張っております。最近公私にわたって卒業生にお世話になる機会が増えました。硬式野球部のOB及び父母会、子供のスポーツ少年団等です。今後も盛岡大学卒業生との繋がりに感謝し、母校の発展のために頑張りたいと思います。



吉田 典子さん(旧姓 高井)

元職員 児童教育学科卒/2期生

私は盛岡大学を2回卒業した卒業生です。一度目の学生時代4年間を思い出すと様々な対話の場が甦ります。北本和子先生と金子エキ先生の研究室に毎日通っていた私に「出勤簿を置きましょうか?」と優しくお茶目に笑うお二人の笑顔。就職活動で職安や新聞広告を頼りに自力で歩き回り、やっと面接となると「盛岡大学はどこ?何を学べるの?」と問われ、「研究熱心な素晴らしい先生方が密に指導してくださる大学です!」と冷や汗を流しつつ、自己肯定のため必死に踏ん張った場面。今でも鮮明に思い出されます。

二度目の大学職員時代は卒業までの27年間。様々な部署経験を積みさせていただき、多くの教職員の皆様、多くの学生の皆さんと関わることが出来ました。全てが私の糧となっています。人生の折り返し地点を過ぎた今、生涯学び続け社会に貢献し続ける準備に入りました。盛岡大学は、学びを与え送り出す「母港」のような大学であると感謝しています。

新校舎完成!

平成27年10月1日着工から約10カ月、昨年7月31日に無事建設工事が終了、ついに新しい校舎が完成しました。

工事期間中、特に冬期は積雪も少なく天候に恵まれ、順調に工事が進みました。同年9月16日には、新校舎完成をお祝いする竣工式が行われ、式典には太田理事長、徳田学長、菅原同窓会長、盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会の谷藤会長、大学関係者、工事関係者等、約60名が出席し

ました。

校舎とラウンジのネーミングも、愛称を募集し、校舎は「STUDENT HALL」、1階の学生ラウンジは「岩姫 LOUNGE」と決定しました。

今号では、学生を主とした使いやすい設備、施設を目指して建てられた新校舎をお伝えします。



①学生ラウンジ(岩姫LOUNGE) 2階分の吹き抜け、床暖房を設置



②正面玄関
自動ドアと凍結防止ヒーターを設置



③アクティブホール
最大約400名収容、間仕切りも可能



④教員養成サポートセンター
個別相談に対応する相談室も設置



⑤パウダールーム
大鏡を取り付けた10人分の化粧スペース



⑥同窓会室
約60㎡、会議も可能

このほか、講義室、
演習室、保健室、相談室も
設置されました。
盛岡大学を訪れた際には、
ぜひ新校舎にも足を運んで
みてください。

ホームカミングデー

平成28年10月9日(日)に、聖陵同窓会主催、盛岡大学・盛岡大学短期大学部、盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会共催により、『第4回ホームカミングデー2016』を開催しました。当日は、約80名の参加者が集い、学園祭『聖陵祭・聖華祭』も同時開催していたため、旧友との再会や恩師との近況報告だけでなく、在学生との交流を深めることができました。

平成28年9月に完成したばかりの新校舎を会場としました。建物の内観・外観の真新しさ、全館内エアコン備え付けや感知式電灯(もちろんLEDです。)など、設備が整っており、皆さんから「在学中に建設してほしい。」との声が聞こえました。(新校舎の詳細は『新校舎が完成しました!』をご参照ください。)

歓迎式典の後、葛巻町立葛巻小学校副校長の小室好司さん(児童教育学科卒4期生)から講演『被災地の

文化支援の現状』をいただきました。

その他の催しとして、さんさ踊り実行委員会によるさんさ踊りの演舞や、十和田市在住のミュージシャン桜田マコトさん(英米文学科卒7期生)によるミニライブ、フリートークの時間にはケーキバイキングを実施しました。ガトーショコラやモンブラン等の合計6種類、総数300個のケーキが並び、参加者の会話に花を添えていました。

次年度の開催日は未定ですが、開催の際は多くの同窓生に参加頂き、より多くの絆を結ぶ場にしていきたいと考えております。



卒業生は今



文学部 児童教育学科 平成5年度卒業
合同会社ナイス 代表社員

小林 昭さん

祈り。 訪問介護事業所開設にあたり

起業するとき一冊の本を読みました。恩師、角谷晋次先生から頂いた『夜もひるのように輝く』です。キリスト者で、人道主義者で、医療・教育・社会福祉事業を数々起ち上げた長谷川保の生き方に、信仰者としての感銘を覚えました。長谷川保の人生観、「社会福祉事業」の原点は「愛」です。それは、キリストの隣人愛です。ルカ10章29節以下に「良きサマリア人」の話があります。第一に神を愛すること、第二に自分を愛するように隣人を愛すること。私は、高齢者福祉・介護の働き手として、聖書が教えるこのふたつを実践したいと願います。「愛あるところに神あり」マタイ25章35節以下、神は、隣人を愛して、その人々のために奉仕をする、その中にご自身を現されます。愛の奉仕と願いと祈り、執り成しの祈りをもって人に仕える者となり、そして、神様の働き手となるように信仰生活、キリスト教社会福祉・高齢者福祉・介護の道を歩んでいきたいと願っています。



文学部 英米文学科 平成14年度卒業
(株)Life Style 代表取締役

熊谷 達也さん

岩手の自社ブランドを 世界に発信!

私はDJ、ダンサー、Low Riderであり、本業としてロサンゼルスWest Coast Cultureを総合的にビジネスとしています。90'sのGang Culture、洋服、音楽、スケートボード、DJ、グラフィティ、アメ車、ラップ、ダンス等の無形文化もまるごとカリフォルニアから輸入し商品化します。いわゆるマニア向け商品ビジネスですね。

もう一つの業務は会計コンサルティングです。お店や会社の会計経理作業を代行し利益計算を行います。経営者の思い描く将来、目標や思考を現実化させる為、必要な方法を一緒に100%実行します。

自分の意志決定次第で努力=目標を達成する為に実行すれば、全ての思いは現実化します。私はよく経営をルールや攻略法プラス楽しむという携帯の課金ゲームに例えます。経営や企業を目指す皆さんを楽しめるリアル課金ゲームの世界へお連れします。

活躍する在学生

文学部児童教育学科
児童教育コース1年

高橋 美月さん

私は、幼い頃から「人のためになることをしたい」という思いがありました。4歳から競泳を続けてきたのですが、その経験を生かせるものを知りませんでした。しかし、岩手国体の水泳競技に役員として携わったとき、ライフセービングに出会いました。ライフセービングは、今まで続けてきた競泳を生かすことができるし、人の命を守ることができると思い挑戦してみようと思えました。今回、ライフセービングのインカレ、プール競技に初めての参加です。自分自身の出場種目で、トップのライフセーバーと競っていくのはもちろんですが、トップ選手の技術やライフセービングの今までの経験を聞き、今後の活動のために学んでいきたいと思えます。そして、私は今、児童教育学科で教育について学んでいるので、将来、子どもたちにも、水から自分の命を守る方法や、人の命を助ける方法を教え、少しでも子どもたちが自分の命を守ることができるように援助していきたいです。

インカレでは、今まで指導をしてくださった方、両親、クラブの仲間への感謝を忘れず挑戦していきたいと思えます。岩手、東北ではあまりライフセービングについて知られていないので、この機会に、興味や関心を持ってくださる方が増え、ライフセービングは命を守ること、教育、スポーツの幅広い分野で役立つものだと知ってもらえれば嬉しいです。



文学部児童教育学科
保育・幼児教育コース2年

田中 翔太さん

私は、盛岡大学にスポーツ推薦で合格し入学しました。競技種目はボクシングです。

ボクシングは高校から始めました。始めようと思ったきっかけは、高校の先輩に誘われ、あまり自分には見慣れない競技で「挑戦してみようかな」という気持ちもありボクシングを始めました。先生や一緒に部活動に励んできた仲間たちのおかげで、三年生の時にインターハイに出場することができました。大学では部活動がなく練習環境がないため、母校である盛岡南高校で練習をさせてもらっています。高校の部活動の時間に合わせて練習しているため、講義と重なるときもあり練習時間はかなり少ないです。その少しの時間を有効に使い、練習に励んでいます。現在は市民体、県民体に出場し、良い成績を残せるよう頑張っています。

これからも、練習に励みながら市民体、県民体に留まらず上の大会に出場できるよう頑張っていきたいと思えます。



教室の机が リニューアルされました!

2016年3月に校舎の机がリニューアルされました。砂込キャンパス開設時から使用していた天板が木の机からグレーの天板でキャスター付きの机に更新されました。

天板の色が変わって教室の印象もがらっと変わりました。きれいな机に新鮮さを感じる一方で一抹の寂しさを感じる方も多いのではないのでしょうか。これからはこの机に学生達が新しい歴史を刻んでいくことでしょう。



AFTER

BEFORE

退職教員訃報

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに皆様にお知らせいたします。

***河野 道弥 先生**
(元盛岡大学文学部英米文学科 教授)

平成28年7月25日、91歳で逝去されました。

英米文学科が開設した昭和56年4月から昭和60年3月まで、盛岡大学文学部英米文学科の教授を務められました。在職期間中、学生部長も兼務しておられました。世界に通じる英語の面白さ、重要性とともに世界情勢を読み解くセンスなど、国際教養も含んだ「生きた英語」の講義には学生の興味が尽きませんでした。

***遊座 昭吾 先生**
(元盛岡大学文学部日本文学科 教授)

平成29年1月6日、91歳で逝去されました。

昭和62年4月に生活学園短期大学の専任講師として入職され、平成元年4月から平成10年3月までは盛岡大学文学部日本文学科の教授を務められました。石川啄木研究者として国際啄木学会会長も務められ、啄木研究の国際的進展と研究者の海外ネットワークづくりにも貢献されました。平成19年度盛岡大学比較文化研究センター公開セミナーでは「木を植えた人の物語－宮沢賢治とジャン・ジオノー」と題してご講演もいただきました。

平成27年度 聖陵同窓会決算報告 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

収入の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	
入会金	1,750,000	1,860,000	
終身会費	3,500,000	3,720,000	
雑収入	20,000	12,083	
特定預金取崩収入	0	0	
計	5,270,000	5,592,083	
繰越金	1,840,880	1,840,880	
合計	7,110,880	7,432,963	

支出の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	
事業費	3,980,000	3,874,099	
事務費	10,000	38,866	
通信費	50,000	6,958	
会議費	100,000	103,038	
慶弔費	100,000	95,819	
旅費交通費	100,000	45,000	
財政基金繰入支出	2,000,000	2,000,000	
計	6,340,000	6,163,780	
繰越金	770,880	1,269,183	
合計	7,110,880	7,432,963	

事務局だより

昨年2016年、当地岩手は希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の年でした。本学からは栄養科学部栄養科学科1年の三上華海さんが国体の100m平泳ぎ(成年女子)、400mメドレーリレー(成年女子)の競泳2種目に出場。健闘をみせてくれました。

また、全国障害者スポーツ大会である希望郷いわて大会では、本学の学生が選手団サポーターボランティアとして多数参加。フライングディスク競技の各県選手団をサポーターしました。その他にも本学学生は各県選手団への応援幕の作成等、大会の裏方としても参加しました。

さて、第4回となる本年度のホームカミングデーも聖陵同窓会主催で行いました。回を重ねるごとに、若干ではありますが多くの同窓生に参加

頂けるようになっております。来年度も引き続き行う予定でありますので、お誘いあわせの上、是非お出かけください。また、昨年度のホームカミングデーの案内に併せてお出しした同窓生の住所確認には今年度も返信を頂いております。誠にありがとうございます。住所変更登録は同窓会のホームページからも出来ますのでご活用ください。

聖陵同窓会の会員は2017年3月の卒業生をもって11,500名を越えます。しかし、転居等により会報をお届けできていない会員も少なくありません。同窓生同士でお話する機会などありましたら同窓会報のことを話の端のせていただき、「届いていない」という方がいらっしゃいましたら、住所変更登録を勧めさせていただきます。

編集後記

編集委員

佐藤大裕(平成12年度卒)/吉田典子(昭和60年度卒)/畑村とも子(昭和60年度卒)/上條尚樹(平成15年度卒)/吉田智子(平成15年度卒)/川田彩乃(平成20年度卒)/濱畑和幸(平成22年度卒)/佐々木啓(平成23年度卒)/小田野愛子(平成24年度卒)/佐藤克俊(平成24年度卒)/戸羽智美(平成24年度卒)/松田祥絵(平成25年度卒)/田澤綾乃(平成27年度卒)

今号は同窓会報20号を記念してフルカラー増ページでの発行となりました。「20人コメント」いかがでしたでしょうか。今までもお世話になった先生方が知りたいというご意見を頂戴していました。一部の先生方ではありますが在職期間の長い方を中心にコメントを掲載でき、ご要望に応えることができたのかなと思っています。年1回の発行ですがお手元に届いた会報が友人や先生、大学との新しいつながりのきっかけになれば幸いです。